

報道関係者各位

Color Communication Infrastructure、 電話番号に取って代わるよう設計された グローバル通信アイデンティティ「CCI.ID.1」を発表

国番号、ネットワーク、デバイス、アプリケーションに依存しない、通話・メッセージ・ビデオのための持続的なアイデンティティ

【ロンドン、2026年9月30日】Color Communication Infrastructure（CCI）は本日、CCI.ID.1を発表しました。CCI.ID.1は、人々や組織が互いに電話をかけ、メッセージを送り、連絡を取り合うための正規のアイデンティティとして、電話番号に取って代わるよう設計された持続的な通信アイデンティティです。

電話番号は、公的な識別と、地理的に構成されたアドレッシングおよびルーティングの仕組みを一体化しています。CCI.ID.1は、持続的かつ公的な通信アイデンティティを、そこに到達するための経路から切り離します。

アイデンティティは変わらない。経路は変えられる。

一つのCCI.ID.1アイデンティティは、音声通話、メッセージ、ビデオ、および参加する通信プラットフォームをまたいで機能するよう設計されています。CCIが統合された環境では、個人、組織、または組織内で権限を付与された役割が、アプリケーションやサービスごとに別々の公開アイデンティティを持つ必要はなくなります。

各CCI.ID.1アイデンティティは、単一の権威ある全世界共通の名前空間に属します。アイデンティティ自体は国番号を含まず、国内の番号計画、SIM、ネットワーク、デバイス、アプリケーションのいずれにも依存しません。そのため、最初に利用した国や事業者に縛られることはありません。

CCIは非公開の技術受入試験において、CCI.ID.1アイデンティティ間の音声、メッセージ、ビデオ通信を実証しました。これには、電話番号が紐付いていないアイデンティティとの双方向通信も含まれます。

CCI.ID.1は既存の通信インフラを置き換えるのではなく、それと連携して機能します。CCI Gatewayが、CCIネイティブのアイデンティティと既存の番号ベースのインフラを接続するため、移行期間中も電話番号とネットワークは引き続き機能します。

仕組み

CCIは4つの機能を分離します。アイデンティティ（誰に到達するか）、権限（誰がそのアイデンティティを管理するか）、解決（現在どの認可済みエンドポイントがそのアイデンティティの通信を受け持つか）、伝送（何が通信を運ぶか）です。CCIは、アイデンティティ、権限、解決の共通フレームワークを定義します。伝送とサービス提供は、参加する通信システムがそれぞれの役割に応じて担います。

このためCCI.ID.1は、ユーザーが端末、ネットワーク、アプリケーション、その他の認可済みエンドポイントを変更しても、同じアイデンティティを維持できるよう設計されています。たとえば組織は、顧客サービス部門に持続的な通信アイデンティティを付与でき、対応する人員やシステムが変わっても、そのアイデンティティは変わりません。

単一の名前空間は、単一の中央データベースを意味するものではありません。解決は地理的に分散させることも、フェデレーション方式で行うこともでき、その場合もCCI共通の信頼・権限・解決のフレームワークの下に置かれます。

CCI.ID.1はデバイスの所持とアイデンティティに対する権限を分離しているため、そのアーキテクチャは、提示されたアイデンティティが提示者によって実際に管理されていることの検証を支援するよう設計されています。これにより、通信アイデンティティの保証の強化と、なりすましへの耐性向上に向けた基盤が築かれます。

Colorは、CCI.ID.1アイデンティティを利用者向けに表す表現の一つです。同一のアイデンティティを指し示すものであり、別個のアイデンティティではありません。

Matthew Smith

CCI.ID.1の発明者であり、Color Communication Infrastructureの創業者であるマシュー・スミス（Matthew Smith）は、次のように述べています。

「電話番号の仕組みは、これまでに生み出された通信インフラの中でも最も成功したものの一つであり、世界に多大な貢献を果たしてきました。しかし、コミュニケーションのあり方は変わりました。人々は今、さまざまなデバイス、ネットワーク、サービスをまたいでやり取りしていますが、電話番号は依然としてアイデンティティと経路の両方を担っています。」

「CCI.ID.1の出発点はシンプルな原則です。この二つの機能は分離できる、ということです。アイデンティティを変えることなく、経路を変えることができます。電話番号が紐付いていないアイデンティティとの通信も含め、私たちはこの原則を参照環境で実証しました。」

「目的は、人々が頼りにしているネットワークを置き換えることではありません。それらのネットワークをまたいで機能する、持続的なアイデンティティの層を通信にもたらすことです。」

「アイデンティティは持続し、経路は置き換え可能であるべきです。」

現状と評価

非公開の技術受入試験では、さらに次の事項を実証しています。エンドポイント交換時のアイデンティティの持続、エンドポイントの認可・複数エンドポイントでの同時サービス・選択的な解除、CCI Gatewayを介した既存SMSサービスとの双方向の相互運用、既存の番号ベース（E.164）ネットワークからの着信接続、組織および組織内の持続的な役割のためのアイデンティティ、そして通信アイデンティティを変えずに行う管理権の移転です。現在の実装はエンジニアリング用のリファレンス環境であり、本番環境の通信サービスではありません。本番運用に向けた堅牢化、認証取得、スケーリング、機関との統合は今後の段階となります。

CCIはインフラであり、一般消費者向けの通信アプリケーションではありません。デバイスメーカーおよびOS事業者、ネットワーク事業者、通信プラットフォームおよびサービス事業者による統合を前提に設計されており、各社は自社のデバイス、ネットワーク、アプリケーション、ブランド、顧客関係を維持します。電話番号の廃止に向けたスケジュールは提案していません。

対象となるデバイスメーカー、OS事業者、ネットワーク事業者、通信プラットフォームには、管理された条件下での評価の機会を提供する予定です。技術文書、リファレンスアーキテクチャ、管理された条件下での試験、裏付けとなるエビデンスへのアクセスが含まれます。今後の開発項目には、本番運用向けのセキュリティと認証取得、相互運用性の拡張、複数エンドポイントにおけるセッションの来歴管理、キャリアグレードの緊急通信の統合が含まれます。

Color Communication Infrastructureについて

Color Communication Infrastructure（CCI）は、持続的な通信アイデンティティのためのインフラを開発しています。CCI.ID.1はCCI初の通信アイデンティティ仕様です。Color Communication Infrastructureは、イングランドおよびウェールズで登記されたArrowmane Limitedが運営しています。

詳細：colorci.com

メディアキット：プレスリリース、背景資料、創業者レター（Founder's Letter）、ガバナンスと権限に関するQ&A、アーキテクチャ図、プレス用画像、CCIブランド素材を含むCCI.ID.1メディアキット（英語）は、colorci.com/mediaで入手いただけます。

本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

Color Communication Infrastructure
press@colorci.com

マシュー・スミスへの取材をお受けしています。取材のお申し込み：press@colorci.com

以上

注記

- **E.164：**国番号を含む国際公衆電気通信番号計画を定めたITU-T勧告。
- **正規の通信アイデンティティ：**Colorを含む、他のすべての参照が最終的に解決される権威あるアイデンティティ。
- **CCI Gateway：**CCIネイティブのアイデンティティと、SMSを含む既存の番号ベースの通信との間の、管理された相互運用および移行の境界。
- **実証：**CCIのエンジニアリング用リファレンス環境における非公開の技術受入試験で示されたことを指します。本番展開、通信事業者による認証、大規模運用を意味するものではありません。